

学位被授与者氏名	鄭 朝尹 (てい ちょういん)
論文題目	婚姻パターンの推移の原因の分析—学歴男女格差の逆転が生じる背景—
論文審査結果の要旨	<p>鄭朝尹氏の学位請求論文「婚姻パターンの推移の原因の分析—学歴男女格差の逆転が生じる背景—」は、多くの国々において女性の学歴が男性を上回るという、学歴に関する学歴男女格差の逆転に関する研究である。このテーマの研究については、国際的に関心が高く活発に研究されている。論文で示されるように世界経済フォーラムによる「The global gender gap report 2022J」の最新データに基づくと、学歴に関する学歴男女格差の逆転は、もはや構造的な現象と考えられる。この現象は、大学進学動機を、学歴賃金プレミアムに求める伝統的な人的資本理論では、観察されるデータと整合的に説明することができず、近年活発な研究が続けられているテーマである。</p> <p>このテーマの研究の一つの流れは、女性の高い進学動機を、学歴結婚プレミアムに求めるものである。すなわち、大学を卒業することによって、女性のほうが男性よりも結婚市場で有利になると考える流れである。鄭朝尹氏は、夫婦間の学歴差が結婚後の家庭内配分で有利になることが学歴結婚プレミアムを生み、これにより女性のほうが男性と比べ大学進学動機が高くなるという仮説を立てて、理論的な分析を行っていることに研究の新規性が認められる。</p> <p>学歴結婚プレミアムに原因を求める研究の多くは、結婚前に結婚後の夫婦間家庭内配分にコミットできることを想定した、効用移転を伴う安定的マッチングモデル(the stable matching model with transferable utility ; Becker-Shapley-Shubik model) を用いた研究 である。このモデルについて、実際の結婚は結婚前に結婚後の家庭内配分に関して完備な契約を結ぶことは困難であるとの異論があることに加え、結婚前の競争的な調整過程により、結婚相手の学歴といった属性が異なることによる自身の効用の違いをモデル上、考慮できないという特徴がある。このことは効用移転を伴う安定的マッチングモデルでは、本研究が立てた仮説は分析ができないことから、鄭朝尹氏は既存研究とは異なるアプローチであるランダムマッチングの枠組みで、モデルを新たに構築し、分析を行っている。ここにも研究の新規性が認められる。</p> <p>分析の結果、平均的に進学率の高い国と低い国で、学歴男女差逆転が生じる条件が異なることを見出しており、このテーマ研究の進展に新しいロジックを提供しているという意味で本研究の貢献は大きいと、高く評価できる。</p> <p>2023年2月16日に、審査員全員出席の下で、最終試験(論文審査)を実施した。論文内容のプレゼンテーション及び、質疑応答の後に、全員一致で当該論文が修士(経済学)として十分な内容であると判定した。</p>